

## 経済指標解説

2015年3月13日

## 主要な経済指標の発表予定と予測 (3/16~3/20)

経済調査部  
松浦大将  
03-3591-1435  
hiromasa.matsuura@mizuho-ri.co.jp

【来週の注目材料】※（ ）内はみずほ総研予想

- 17日 : 日銀金融政策決定会合 (16・17日)  
: 日銀総裁定例記者会見
- 18日 : 日銀金融経済月報 (3月)  
: 2月の貿易統計 (貿易収支▲9,250億円、輸出前年比+0.3%、輸入同+2.1%)  
: 10~12月期の資金循環統計
- 19日 : 1月の全産業活動指数 (前月比+2.0%、前年比▲1.7%)
- 20日 : 日銀金融政策決定会合議事要旨 (2/17・18分)

### 10~12月期の実質GDP 成長率(2次速報)は1次速 報から下方修正

9日に発表された10~12月期の実質GDP成長率(2次速報)は前期比+0.4%(年率+1.5%)と1次速報値(前期比+0.6%、年率+2.2%)から下方修正された。在庫投資が大幅に下方修正されたことが、GDP全体の下方修正につながった。もっとも、在庫投資の下方修正は昨年末にかけて在庫調整が進んだことを示しており、今後の景気にとってはプラスの材料となるだろう。また、個人消費も上方修正されたことから、今回の2次速報は成長率こそ下方修正されたものの、中身としては悪くない結果だったと評価できる。みずほ総合研究所では2次速報の結果を受けて、改訂経済見通しをリリースした(下記URL参照)。

[http://www.mizuho-ri.co.jp/publication/research/pdf/forecast/outlook\\_150309.pdf](http://www.mizuho-ri.co.jp/publication/research/pdf/forecast/outlook_150309.pdf)

### 企業マインド、消費者マイ ンドはともに持ち直し

9日に発表された2月の景気ウォッチャー調査では、景気の現状判断DIが50.1と前月から4.5ポイント上昇した。家計動向関連・企業動向関連・雇用関連いずれも改善し、7カ月ぶりに景気の良し悪しの境目となる50を上回った。家計動向関連ではガソリン価格の低下や株高が購買意欲を改善させているとの声があったほか、企業動向関連では輸入原材料費や人件費上昇分を徐々に販売価格へ転嫁できるようになってきたというコメントもみられた。また、12日に発表された2月の消費者態度指数(一般世帯、季節調整値)は、構成項目である全ての意識指標が改善し、40.7(前月差+1.6ポイント)と3カ月連続

**機械受注は3カ月ぶりに減少したが、減少幅は小幅**

で上昇した。内需の回復や物価上昇の鈍化を背景に、企業・消費者ともにマインドが持ち直している。

11日に発表された1月の機械受注（船舶・電力を除く民需）は、前月比▲1.7%（12月同+8.3%）と3カ月ぶりに減少した。非製造業（船舶・電力を除く）からの受注が卸売業・小売業や農林漁業を中心に増加した一方、前月大幅に増加した反動もあり製造業からの受注は15業種中10業種と幅広い業種で減少した。もっとも、製造業が一般機械や情報通信機械などの増加基調を受けて上向いていることに加え、非製造業も底入れしており、機械受注は増加傾向を維持している。

来週は貿易統計や全産業活動指数などが発表される。

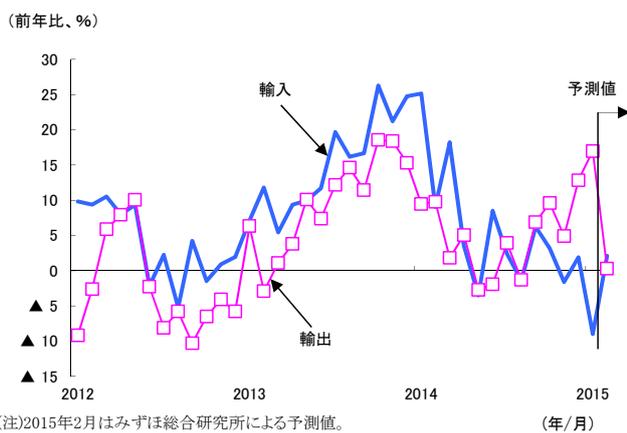
**貿易赤字は前年同月から拡大**

18日に発表される2月の貿易統計は、輸出金額が前年比+0.3%（1月同+17.0%）、輸入金額が同+2.1%（1月同▲9.0%）、貿易収支が▲9,250億円（1月▲1兆1,791億円）と予測する。1月にアジア向け輸出が集中した反動などから2月の輸出の伸びは前年比ほぼ横ばいにとどまる見通しである。一方で輸入は上中旬実績が前年比+9.9%と大きく拡大しており、2月を通しても増加が見込まれる。貿易収支の赤字幅は5カ月ぶりに前年同月（8,061億円の赤字）から拡大すると予測する。

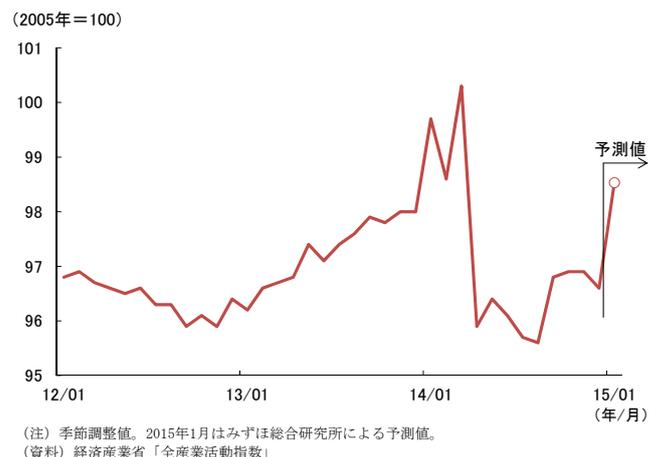
**全産業活動指数は前月比プラス**

19日に発表される1月の全産業活動指数は、前月比+2.0%（12月同▲0.3%）と予測する。第3次産業活動指数や鉱工業生産指数が上昇したため、前月比プラスとなる見通しである。

図表1 輸出入金額の推移



図表2 全産業活動指数の推移



執筆担当～ 松浦大将

予測担当～ 貿易統計：大和香織、全産業活動指数：坂中弥生

米国主要経済指標（ダイアリー掲載分）：山崎亮

●当レポートは情報提供のみを目的として作成されたものであり、商品の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。

## 【 来週のダイアリー 】

日付	経済指標等	予想	前回	前々回
3/13(金)	米 ミシガン大消費者信頼感指数(3月速報)	[95.5]	95.4	98.1
	生産者物価指数(2月) [食品・エネルギーを除く]	前月比 +0.3% 前月比 +0.1%	▲0.8% ▲0.1%	▲0.2% +0.3%
3/16(月)	米 鉱工業生産指数(2月) 設備稼働率(2月)	前月比 [+0.3%] 79.5%	+0.2% 79.4%	▲0.3% 79.4%
	ニューヨーク連銀製造業業況指数(3月)	[+5.0]	+7.8	+10.0
3/17(火)	日 日銀金融政策決定会合(16・17日)			
	日 日銀総裁定例記者会見			
	米 住宅着工件数(2月) 住宅着工許可件数(2月)	年率 [104.5万件] 年率 [106.5万件]	106.5万件 106.0万件	108.7万件 106.0万件
	尼 金融政策決定会合			
3/18(水)	日 通関収支 原数値 貿易統計(2月)	[▲9,250億円] 前年比 [-] 輸出 前年比 [+0.3%] 輸入 前年比 [+2.1%]	▲11,791億円 - +17.0% ▲9.0%	▲6,656億円 - +12.8% +1.9%
	日 日銀金融経済月報(3月)			
	日 20年利付国債入札			
	日 資金循環統計(10~12月期速報)			
	米 FOMC(17・18日)			
	日 全産業活動指数(1月)	前月比 [+2.0%]	▲0.3%	±0.0%
3/19(木)	米 フィラデルフィア連銀製造業業況指数(3月)	[+5.0]	+5.2	+6.3
	米 経常収支(10~12月期)	N. A.	7~9月期 ▲1,003億 <sup>ドル</sup>	4~6月期 ▲984億 <sup>ドル</sup>
	米 失業保険新規申請件数(~3/14)	[290千人]	289千人	325千人
3/20(金)	日 日銀金融政策決定会合議事要旨(2/17・18分)			

予想：[ ]はみずほ総合研究所予想、それ以外はコンセンサス(Bloomberg等)。予定は変更になる可能性があります。  
日：日本、米：米国、尼：インドネシア